

第44回 宇宙科学・探査小委員会 議事要旨

1. 日時：令和3年4月28日（水） 16:00-18:00

2. 場所：宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

松井座長、常田座長代理、関委員、永田委員、永原委員、山崎委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

松尾局長、岡村審議官、川口参事官、吉田参事官

(3) 関係省庁等

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課

福井課長

国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）

國中理事

JAXA宇宙科学研究所

藤本副所長

4. 議事要旨

(1) 宇宙科学プロジェクトの今後について

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

○米国NASAが2030年以降に火星からのサンプルリターンを計画していることを踏まえると、日本はそれに先だって、MMX（火星衛視画探査計画）を2024年に打ち上げ、2029年に人類初の火星圏からのサンプルリターンを実現することが重要である。

(2) 月と火星の探査に係る宇宙科学・探査ロードマップの改訂について

JAXAから資料1を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。

(○：意見等)

○宇宙科学・探査ロードマップの新改訂では、SLIMやMMXを宇宙科学に入れるか、国際宇宙探査に入れるかを整理するべき。

○国際宇宙探査は宇宙科学研究所だけではなく、JAXA全体の取組だと考えられるので、JSECとの関係性も整理してほしい。

（3）月面における科学について
JAXAから資料2を用いて説明があった。

委員からは、以下のような意見があった。
(○：意見等)

○月面における科学の中で、今後10年を見据えて月で何をしていくか、地球と関係した研究や、月でないと出来ない観測という観点から考えるべき。

○日本が開発する有人与圧ローバを利用すれば色々とできるはずなので、テーマを研究者が考えていくべき。

以上